

群 教 セ	G11 - 01
	平27.257集
	特別活動

# 互いのよさを認め、支え合う人間関係を培う 学級活動（1）の工夫

— 「つながりマップ」の活用と工夫を通して—

特別研修員 宿原 由美子

## I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編における特別活動の目標に、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」とあるように、望ましい人間関係を形成するための集団活動の重要性が述べられている。

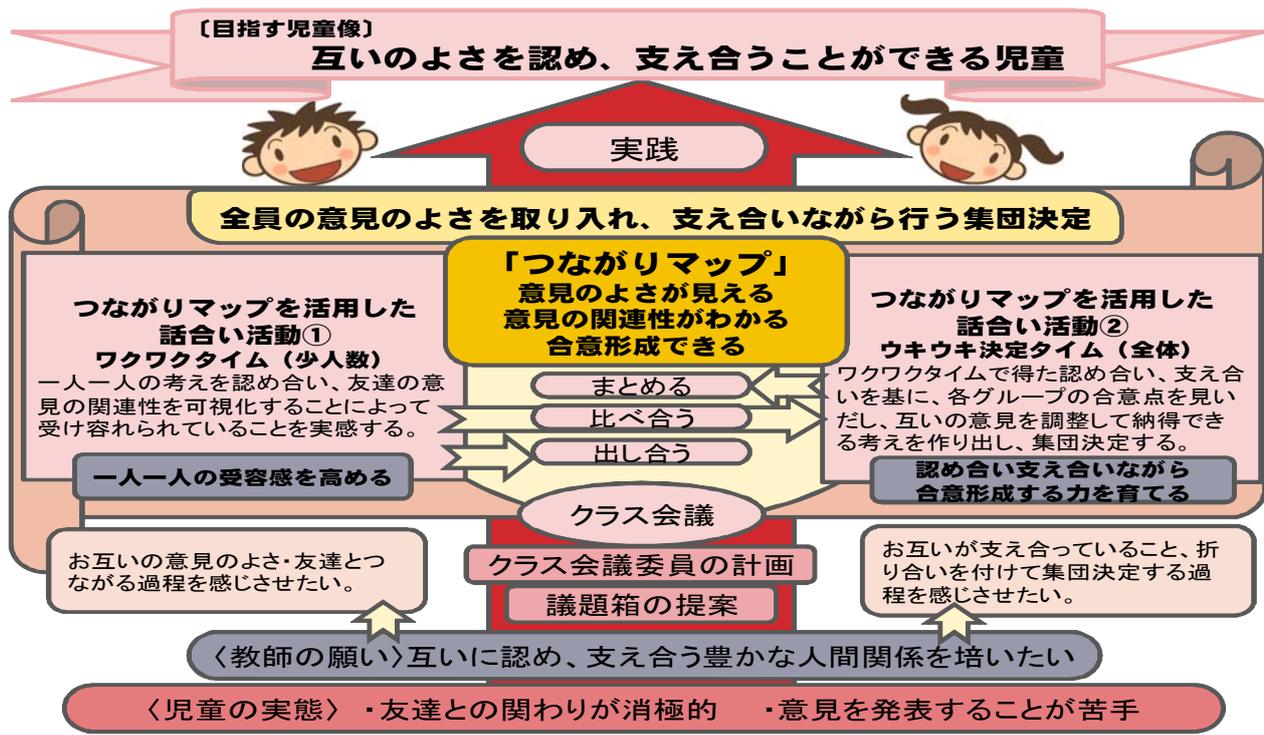
本学級においては、友達との関わりが消極的で、意見を発表することが苦手な児童が見られる。そのため、友達から認められたり受容されたりする関係を意図的に築いていく必要がある。互いに信頼関係を築き、支え合おうとする人間関係を培うためには、お互いの意見を認め、関連性を見いだすなど、一人一人の考えを大切に話合いを行うことが大切であると考えた。

具体的には、互いの意見のよさを見付け、意見の関係性を見付ける「つながりマップ」を使った話合い活動を取り入れる。「つながりマップ」は、全員の意見を矢印等で関連付け、意見をまとめていくための話合いツールである。これにより、意見の関連性が可視化され、お互いの意見のよさ、友達とのつながり、意見がまとまっていく過程を感じ取ることができる。

このような「つながりマップ」を活用することにより、互いのよさを認め、友達とのつながりを感じられる安心した雰囲気の中で信頼関係を築き、課題の解決に向かって支え合うことで、望ましい人間関係を培うことができると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1)実践1における研究上の手立て

#### 議題 「おもいやり宣言を考えよう」(第5学年・1学期)

##### ①自分の考えを持たせる「サポートタイム」

事前に、議題についての自分の考えを発表したり、友達の考えにアドバイスをしたりする「サポートタイム」を設定し、友達の意見を参考にしながら自分の考えを持てるようにする。

##### ②「つながりマップ」作成のための意見発表の時間

円の形態になり、全員の意見発表を行い、お互いの意見を聞いた上で「つながりマップ」を作ることで、友達の意見のよさを取り入れながら発言できるようにする。

実践1における「サポートタイム」は、自分の考えを持つためには有効であった。課題として、少人数の「つながりマップ」を使った話し合い活動に時間がかかりすぎ、全体でまとめるための話し合い活動の時間が確保できなくなってしまう。そのため、手立てを「サポートタイム」に加え、「つながりマップ」に焦点化し、活用する場面、時間、方法について工夫する必要があると考えた。そこで、少人数グループとクラス全体における「つながりマップ」を活用した話し合い活動において、ヒントカードを用いて、どのような視点でお互いの意見がつながるのかを考えさせることとした。そして、「つながりを考える時間」「折り合いを付けてまとめる時間」と活動の時間を細かく設定することによって、話し合いが充実して進められるように改善を図った。

### (2)実践2における研究上の手立て

#### 議題 「おもいやり大作戦 林間学校の目標を考えよう」(第5学年・2学期)

##### ①少人数グループにおける「つながりマップ」を活用した話し合い活動

お互いの意見のよさや共通点をつなぎ合わせるヒントカードを活用した話し合いを通して、一人一人の考えが受け容れられていることを実感できるようにする。(授業実践2の図4「ヒントカード」・図5「つながりマップ」参照)

##### ②クラス全体における「つながりマップ」を活用した話し合い活動

「お互いのつながりを考え、発表する時間」、「折り合いを付けてまとめ、発表する時間」と区切ることで、意見を発表しやすくし、話し合いの方向を集団決定に向かわせるようにする。

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 少人数グループにおける「つながりマップ」を活用した話し合い活動は、互いの意見のよさや友達とのつながりを可視化することになり、それらを確認しながら意見を述べ合うことができ、児童の受容感を高めることに有効であった。
- クラス全体における「つながりマップ」を活用した話し合い活動を設定したことにより、互いの意見をつなぎ合わせながら折り合いを付け、集団決定をしようとする様子が見られるなど、支え合って考えをまとめていこうとする態度が育ってきた。また、自分の意見がクラス全体の意見の中に取り入れられ、課題解決のために互いの意見が支え合うことを感じ取ることができた。
- 実践の場(林間学校)では、話し合っただけで決定した目標を合言葉に声をかけ合い、協力する様子などが見られ、互いのよさを認め、支え合う人間関係が培われていく様子が見えてきた。

### 2 課題

- 少人数グループで「つながりマップ」を作成する過程での児童の思いを全体での発言に十分に生かせない場面があった。ヒントカードを更に工夫し、意見をつなぐための根拠を明確に示すことにより、自信を持って発言できるようにしていく必要がある。
- クラス全体における「つながりマップ」を活用した話し合い活動では、自分の思いや考えと他のグループの意見をつなぎ合わせるのに時間がかかったことが課題である。めあてや提案理由を明確にし、方向性やゴールを考えながら話し合う指導を継続していく必要がある。

## ＜授業実践＞

### 実践 1

#### 1 議題名「おもしろ宣言を考えよう」（第5学年・1学期）

#### 2 本議題及び本時について

本議題は、児童会の提案「各クラスでおもしろ宣言をつくり、優しさの輪を広げよう」を受け、設定したものである。互いのよさを認め、支え合う人間関係を培うため、次のように手立てを具体化した。

- 事前活動として、「サポートタイム」を設け、意見をまとめることが苦手な児童に対して、友達がサポートしながら他者の意見を取り入れ、自分の意見を持てるようにする。
- 自分の意見を発表するときお互いに受容した雰囲気を感じ取らせるために、円の形態になり、全員の顔が見える状態から話し合いを始めるようにする。
- 班で一人一人の意見のよさや友達とのつながりを可視化するために、少人数グループで「つながりマップ」を作成する。
- クラス全体で意見をまとめる段階においても、「つながりマップ」を使うことで、全員の意見を受容した雰囲気の中で合体案や折衷案を考える。意見をまとめるににくい場面では、教師が司会のための「アシストカード」を提示し、板書を行う。

#### 3 授業の実際

##### (1) 一人一人の意見を持つための「サポートタイム」

事前に、少人数グループで議題についての自分の考えを発表したり、意見をまとめることが苦手な児童にアドバイスしたりする「サポートタイム」を設定した。順番に「～と似ていて」、「～と同じで」など、意見をつなぎながら発言するようにし、お互いの意見について感想を伝え合い、アドバイスする時間を設定した。この時間の設定により、本時には全員が意見を持って臨むことができた。

##### (2) 「つながりマップ」作成のための意見発表の時間

意見を出し合う過程において、円の形態になり、お互いに顔を見合いながら、事前の「サポートタイム」で考えた意見発表を一人ずつ行った。

##### (3) 話し合い活動①（少人数グループ）

意見を比べ合う過程において、班長が司会を行い、理由を付け自分の意見を発表した後、「つながりマップ」を作成しながら、お互いの意見のつながりを確認していった。一人一人の意見がグループの意見を支える話し合い活動となった。各グループごとに一つの意見にまとめることができた（図1）。しかし、この活動に時間がかかり、各グループでのまとめ方にも差が生じた。

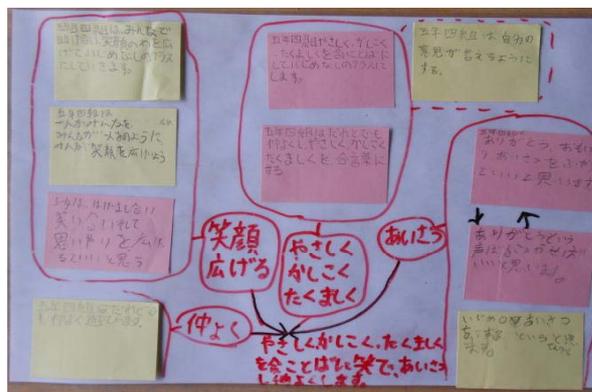


図1 話し合い活動①「つながりマップ」

#### 話し合い活動①（少人数グループ）での児童の発言

- S1：どうやってつながれるかな。
- S2：あいさつに関係するこの3つをかこんだらどうですか。
- S3：学級目標の「支え合い」という言葉と「あいさつし合う」がつながると思います。
- S4：賛成です。おもしろは、「助け合い」のことなのでつながると思います。
- S5：「助け合い」と「支え合い」は4組に必要だと思います。くつつけると意味は「絆を深め合う」になると思いますか。
- S4：いいと思います。でも「励まし合い」も入れたいです。学級目標にもあるから、クラスのおもしろ宣言には入れた方がいいと思います。

#### (4) 話し合い活動②（全体）

黒板の半面に少人数グループでまとめた意見を書いた短冊を順番に並べ、お互いの意見のつながりを考えながら「つながりマップ」として作成し、話し合い、一つの意見にまとめることができた（図2）。しかし、話し合い活動①で時間がかかり、話し合い活動②の全体でまとめる時間が少なくなり、充実した話し合い活動とすることができなかった。また、各グループの意見のつながり方も不十分であった。



図2 話し合い活動②「つながりマップ」

#### 話し合い活動②（全体）での児童の発言

- S1：「ありがとう」という言葉がいいと思います。言われた人は、いい気持ちになるからです。  
 S2：「ありがとう」を言うと絆につながるから「絆」という言葉を入れたいです。  
 T：絆って具体的に何かな。  
 S3：友情だと思います。付け足して「深め合う」を入れるといいと思います。  
 S4：つなげて「助け合う」を入れたい。友達に助けられたら嬉しいし、助けてあげたいからです。

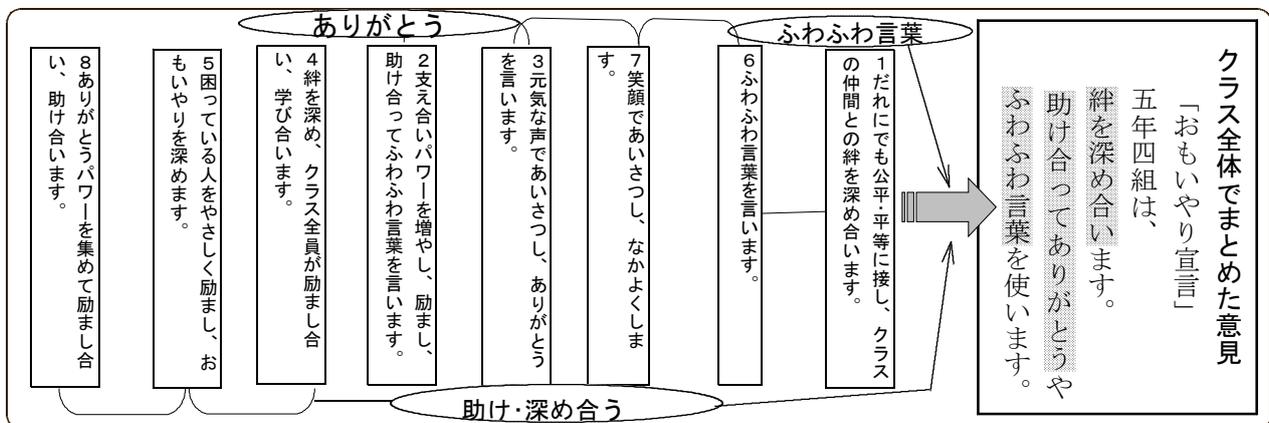


図3 話し合い活動②「つながりマップ」板書の様子

#### 4 考察

- 手立てとして「サポートタイム」を設定し、アドバイスし合ったことで、友達の意見を参考に全員が意見を持って、クラス会議に臨むことができた。しかし、「自分の意見に自信を持って発表できた」と答えた児童が41%だったことから、安心して意見を発表するためには、「サポートタイム」の手立てでは不十分だった。自信を持って発表するための「つながりマップ」を改良した話し合い活動を工夫したい。
- 児童の感想から、全員の前で自分の意見を発表できたことには満足感を持てた児童が多かったと考えられる。しかし、全員の意見発表が、次の比べ合う過程に十分に生かされず、友達の意見を取り入れた話し合い活動の充実にはつながらなかった。
- 「友達のよさを見付けることができた」と答えた児童が82%であったことから、少人数による「つながりマップ」を使った話し合いは、それぞれの意見のよさや、友達とのつながりを可視化することに有効であった。しかし、「友達との意見のつながりを見付けることは少し難しかった」との意見が多かったことから、意見のよさや意見をまとめていく過程についての細かい共通認識が必要だった。
- 話し合い活動②においても「つながりマップ」と矢印を使って、折り合いを付け、一つの意見にまとめていくのは難しいという感想が挙がっていた。児童の話し合いは、自然とそれぞれの意見のキーワードを抜き出し、それをまとめる方向に進んでいった。キーワードに潜む児童の思いをさらに発言させられるような手立てが必要である。
- 黒板の記入できる場所が狭かったため、黒板全面を使用できるようにするなど、使用方法について工夫する必要を感じた。また、短冊だと記入する面が狭く、見づらかったことから児童の思考を可視化、構造化できる大きなボードに改善する必要がある。

## 実践2

### 1 議題名「おもしろ大作戦 林間学校の目標を考えよう」(第5学年・2学期)

#### 2 本議題及び本時について

本議題は、学校行事である林間学校の目標について考える活動として設定したものである。児童の自主的な活動にすること、互いのよさを認め、支え合う人間関係を培う活動にすることを重視し、実践1を踏まえ、次のように手立てを追加し、具体化した。

- 少人数グループにおける「つながりマップ」を活用した話し合い活動を「ワクワクタイム」と名付けて設定し、「一人一人の意見を発表する時間」、「お互いのつながりを考える時間」と区切ること、一人一人の考えを発表しやすくし、受け入れられていることを実感させることができるようにする。
- ホワイトボードへのつながり方の記入や付箋の置き方について「ヒントカード」を工夫して活用することにより、理由を明らかにして自分の意見を詳しく述べるができるようにする。
- クラス全体における「つながりマップ」を活用した話し合い活動を「ウキウキ決定タイム」と名付けて設定し、「お互いのつながりを考え、発表する時間」、「折り合いを付けてまとめ、発表する時間」と区切ること、意見を発表しやすくし、話し合いの方向を集団決定に向かわせるようにする。
- 少人数グループでまとめた意見を大きめのホワイトボードに記入し、つながりを考えながら黒板上に置き、発表することで、聞いている児童にも各グループの意見についてのつながりを実感させるようにする。

#### 3 授業の実際

##### (1) ワクワクタイム(少人数グループ)における実践

ヒントカード(図4)を用い、話し合い活動を行った。「つながりマップ」を使った話し合い活動を重ねるにつれ、児童は、ボードへの記入を工夫し(図5)、意見をつなげるために、「言葉は違うけど似た考え」「自分と考え方が違うけどいい意見だと思う」など、様々な思いを発言できるようになっていった。

ワクワクタイム(少人数グループ)での児童の発言
S1: 運動会と同じで「助け合い」を目標に入れたと思います。
S2: いい意見だと思ったら、 <u>二重丸の印</u> を書いてください。 <u>つなげられるところ</u> はありますか。
S3: 「 <u>けんかしないで</u> 」と「 <u>助け合い</u> 」はつながります。
S4: 「仲間」と「友達」は、同じだから <u>つなげよう</u> 。
S5: <u>全部つなげて</u> 、『仲間』と『励まし合い』はどうですか。理由は、4組は「仲間」を大事にするクラスだからです。運動会の時も、「仲間」を入れて、みんなでいい結果を残せたからです。

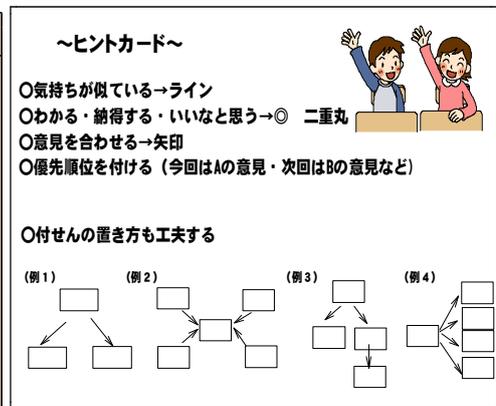


図4 ヒントカード

##### (2) ウキウキ決定タイム(全体)における実践

「考えをつなぎ合わせる」手法を全体の間でも活用した。児童は、少人数グループで使用した物とは別のホワイトボードにグループの意見を書き、黒板に貼りながら操作した(次頁図6)。ホワイトボードを動かし、言葉や思いを記入しながらグループ間の意見をつなぎ合わせていた。また、「お互いのつながりを考え、発表する時間」「折り合いを付けてまとめ、発表する時間」と時間を区切って設定した。

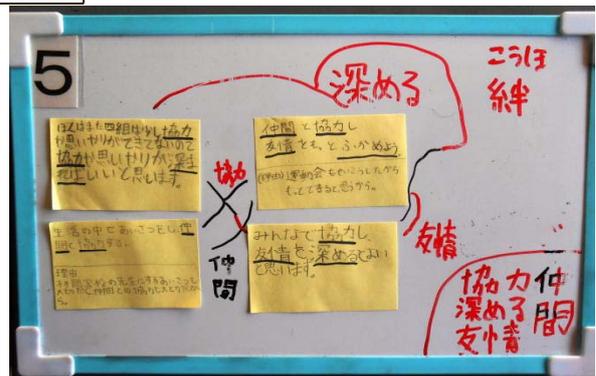


図5 「つながりマップ」のボード

そして、つながりを考えながら黒板上にホワイトボードを置き、発表児童の発言について、ラインや色、言葉を使って「つながりマップ」を作成した。各グループでの意見に折り合いを付け、意見と意見の支え合いを意識し、集団決定することができた。お互いの意見の合意点を見出し、A案・B案・C案などと意見を調整して納得できる考えを作り出す様子も見る事ができた。



図6 黒板で操作したホワイトボード

ウキウキ決定タイム（全体）での児童の発言
S 1 : 「 <u>助け合い</u> 」と「 <u>協力</u> 」は、似ている言葉なので、 <u>つなげて</u> まとめた方がよいと思います。
S 2 : 「 <u>助け合い</u> 」と「 <u>友情</u> 」をつなげるといいと思います。
S 3 : 「 <u>仲間</u> 」と「 <u>協力</u> 」は、クラスの運動会スローガンでも使って成功したので、 <u>つなげて</u> 入れた方がよいと思います。
S 4 : 「 <u>絆</u> 」も学校の運動会スローガンで使ったので、どこかで <u>つなげて</u> 入れた方がよいと思います。
S 5 : 林間学校のチャレンジハイクでは、助け合わないといけないので、「 <u>助け合い</u> 」を入れたいです。
司会 : それぞれの意見がつながったので <u>まとめて</u> いきましょう。
S 1 : 「 <u>仲間</u> 」と「 <u>協力</u> 」がつながっているので <u>Aの意見としてまとめて</u> 考えてみてはどうですか。

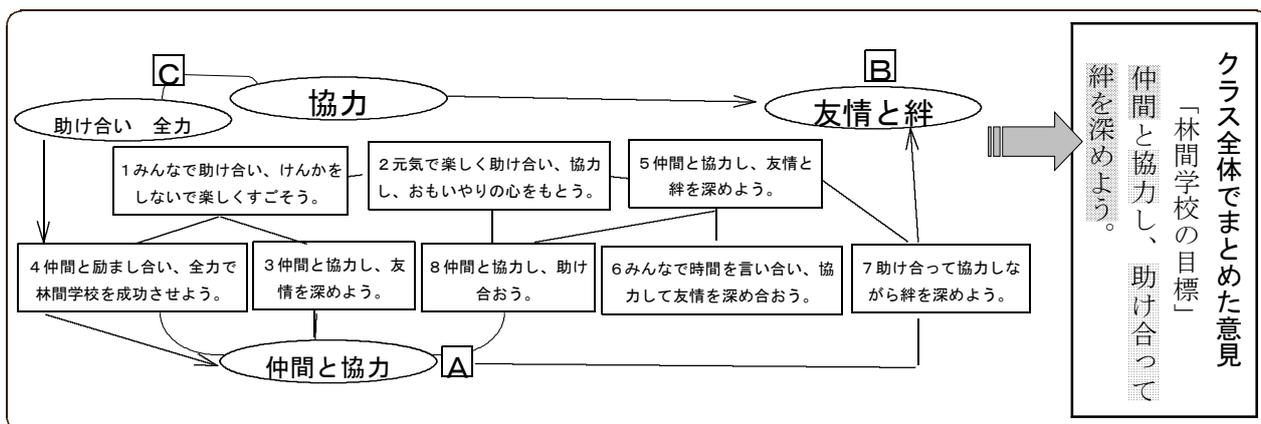


図7 ウキウキ決定タイム（全体） 「つながりマップ」板書の様子

#### 4 考察

- 児童の振り返りカードには、「私の意見も入っている目標なので、それをみんなで話し合って決定したことはとても楽しかったです」「クラス全員で作った思いがたまっているので、クラス全員がこの目標を達成できると思います。目標がみんなで作れてよかった」などと書かれてあった。少人数グループでつながった自分の意見が最終的にクラス全体での意見の中に取り入れられ、互いの意見が支え合うことで課題の解決につながっていくという過程を児童は感じ取ることができた。
- 「つながりマップ」で、一人一人の思いの具体的なつながりを可視化していくためには、「ヒントカード」を改良して、どの児童が見ても友達の意見とつながり、支え合っていると実感できるような「つながりマップ」を使った話し合い活動を行う必要がある。
- 振り返りにおいて、「自信をもって意見を発表できた」と答えた児童は29名、「友達のよさを見つけることができた」と答えた児童は31名で、それぞれ全体の85%、91%にあたる。「みんなが聞いてくれて、つながれたので前回よりも自信を持って意見が言えたから楽しい話し合いになった」など、互いのよさを認め、一人一人の考えが受け入れられていると実感できたことが話し合いの充実につながった。